



入学式



新入生オリエンテーションミーティング



新入寮生歓迎BBQ

- 校長式辞
- 学科紹介
- 国際交流
- 留学生自己紹介
- 学生活動
- 新設備紹介
- 校祖 近藤真琴 顕彰碑の由来
- 新任教員紹介
- 教職員人事異動
- 学校通信



校長式辞

平成26年度入学式・本科・専攻科（生産システム工学）

校長 藤田 稔彦

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日ここに商船学科42名、電子機械工学科46名、制御情報工学科42名、合計130名の本科新入生を迎え、さらに専攻科生産システム工学専攻に11名の進学者を迎え、平成26年度の入学式を挙行できますことは、私ども鳥羽商船高等専門学校教職員ならびに在校生一同にとりまして、大きな喜びであります。

皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校は、非常に長い歴史のある学校です。本校の前身である鳥羽商船費が、明治六大教育家の一人、近藤真琴先生によって明治14年に創設されて以来、今年で133年になります。現在、国立高等専門学校は全国に51校ありますが、それが平成16年に独立行政法人国立高等専門学校機構という一つの大きな組織に束ねられてからちょうど10年が経過しました。この4月からは今後5年間の新たな中期目標を掲

げ、教育・研究のさらなる充実と発展を期しているところです。

周りを海に囲まれた我が国は、海上輸送によって必要な資源や食料を輸入し、工業製品を輸出して経済を発展させてきました。最近では多くの製品の生産拠点が海外に移り、工業製品も輸力量が輸用量を上回る時代へと変化してきました。日本人船員の優秀さには昔から定評がありますし、我が国の技術者の手で設計・生産される工業製品や産業設備などの多くは、あらゆる面で世界最高レベルにあることは間違いありません。しかしながら、近年経済のグローバル化、産業技術の高度化が急速に進み、我が国のものづくり産業においても、その国際競争力が危惧されるようになってきました。

こういう情勢の中で、本校のみならず全国51校の国立高等専門学校に入学された皆さんには、我が国の将来を担う人材として、大きな期待がかけられています。本科で5年あるいは5年半、専攻科に進む人はさらに2年間勉

強し、実践的な工学の知識と技術を身につけ、創造力とリーダーシップを備えた逞しい人間に育って欲しいと思います。

本校では全ての学生が心すべき三つの教育目標を掲げています。

一つ、ジェントルマンシップ、レイ
ディシップ豊かな人間であること。

二つ、創造性豊かな技術者となること。

三つ、国際性豊かな社会人となることとです。

広い視野をもった優秀な技術者となって社会で活躍して欲しい。でもその前に、何が正しいかを判断して行動できるような立派な人間に育って欲しいということとです。

皆さんの年の頃は、精神が柔軟で吸収力があり、本心に勉強が大切なときです。しかし、その一方で、皆さんには先輩や同級生仲間とともに青春時代を大いに楽しんで貰いたいと思っています。体育系、文化系のクラブ活動やロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどに積極的に参加し、「よく学びよく遊ぶ」ことをお勧めします。

学生寮に入る皆さんにお話します。寮は教室やクラブ活動とはまた違った共同生活の場です。皆が楽しくかつ実

りある共同生活を送るために最も大切なことは何か。それは、ごく当たり前のことですが、一人ひとりが寮の規則を守り、お互い迷惑になるようなことは慎むこと、他人の個性を認め尊重することです。人は一人ひとりみんな違いますし、それぞれ得手・不得手、長所・短所があります。また、お互いの相性というものもあります。しかしながら、その違いをお互いに認め尊重し合う大人の良識を持つように努めてください。

最後になりますが、本校では、本校の教育目標に沿い、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生諸君の教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれましても、本校の教育方針にご理解をいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。



商船学科の学生に求めること



商船学科長・機関コース主任
伊藤 友仁

今年度、商船学科長に任命されました伊藤です。本紙面をお借りして、近年の商船学科の状況と学生が目指すべき方向性についての思いを述べたいと思います。

本校商船学科は、明治14年（1881年）近藤真琴先生によって鳥羽商船養成が創設されて以来、135年間にわたり船員教育に貢献し、多くの優秀な船員を輩出してきました。現在は、文部科学省の管轄下でありながら国土交通省が認定した船員教育機関でもあります。教育内容は国際条約に批准されたもので、外航船に必要な3級海技士の資格を取得することができます。

日本人外航船員が活躍する海運業は、国内のみならず世界の経済情勢等に大きく影響を受ける業種で、数社の大手外航海運企業に牽引されている状況にあります。年間の売上は数兆円に達する大手企業3社のいずれかに入社することは、船員にとって最高の舞台に立つことを意味します。これら大手を含む外航船社では、船員以外に、在職期間の半分以上を陸上勤務することが一般的です。つまり、現在の学生に求められるものは、大学出身の陸上社員と同等に仕事ができる高い能力です。本校は、5つの商船高専で足並みを揃え、外航船員として必要な種々の能力を身に付けるため様々な教育プログラムを用意してきました。その代表的なものが、文部科学省の国際化に対応した「海事人材育成プロジェクト」に基づく、各種グローバルプログラムです。例として、外国人教員によるTOEIC対策、国際交流推進室の海外語学研修など多くが用意されています。外航船員を目指す学生は、ぜひこれらを活用していただきたいと思えます。結果的に外航船員の夢が叶わなかった場合でも、これらの教育内容を身に付けた者は内航船員やそれ以外の海運産業等での活躍の場が必ず広がります。

最後に一般論として、船員に限らず社会人として必要なものは、豊かな教養です。本校学生に対しては、まず一般教育の基礎科目（英数国理社など）を、低学年から毎日勉強する習慣を身に付けてもらいたいと思います。それに加えて、健康で明るく元気に毎日を過ごすことも忘れないでください。

商船学科航海コース主任に就任して



商船学科航海コース主任
片岡 高志

今年度4月より商船学科航海コース主任に就きました。平成21年に副寮務主事、平成22年から三年間寮務主事を務めるなど、ここ数年は学寮関係の仕事に就いておりましたので、学科の仕事は久しぶりとなります。本稿では、商船学科航海コースについて、私見を交えて書いてみたいと思います。

商船学科は三年生進級時に、航海・機関の各コースへ分かれていますが、近年は航海コースを希望する学生が多くなっており、航海・機関別の寮生比率では、航海コースの学生が6〜7割を占めていることから、近年の寮生数の増加がそのまま反映されたものと推察されます。これは、近年実施している鳥羽丸名古屋港PR航海や、商船学科合同進学ガイダンス（今年度は横浜・神戸・広島にて開催）等県外でのPR活動により、商船学科の県外からの志願者、即ち、入寮希望者が増加したことが一因と考えられます。

航海コースでは、将来船長となる外航の船舶職員の養成を目指しております。船長に求められる資質・要件は種々ありますが、端的に云えば、直面する事象に対して、瞬時に適切な判断ができることではないでしょうか。いくら頭の中で理解していても、それが行動となつて実際に動けなければ意味がありません。その行動も多くの場合は迅速に行うことが要求されます。先日、韓国で起きたフェリーの転覆・沈没事故では、船長はじめ乗組員の対応が非難されており、こうした事故が起きたときに船長に求められる瞬時の決断力、行動力、統率力をいかに発揮できる学生を育て上げることが、我々航海コースの教員に課せられた使命だと考えております。

最後にコース主任の役割について触れておきます。コース主任は、五年生及び実習生の担任となりますので、主任に課せられた最大の仕事は、本校に入学してきた子供達を社会に送り出すことです。卒業を控えた学生の就職・進学活動を支援し、子供達が自信を持って社会に旅立っていけるよう支えていきたいと思えます。

電子機械工学学科紹介

電子機械工学科長
廣地 武郎

電子機械工学学科とはどんな学科かを説明すると、いろいろな説明の仕方があります。製造技術の基礎となる機械工学と、機械を制御する電気電子工学の両方の専門知識と技術を身につけた技術者を養成する学科です、というものがひとつです。判断機能を持つ機械（いわゆるロボット）を設計製作できる技術者（の卵）を送り出す学科と言ってもいいでしょう。言うのは簡単ですが実際は難しく、機械工学、電気電子工学、制御工学、情報工学などの重要基礎科目を広く学ばせることがまず、第一となります。そして、5年生の卒業研究でそれら基礎科目を関連付け、応用し、知識技術の総合力を身につけさせようとしています。以下に記す5年生卒業研究題目のいくつかの紹介と簡単な説明より本学科の様子を知っていただければと思います。

・**ジャイロセンサによる腕の動き検出とロボット操作への応用**
人の身振り手振りによりロボットを操作しようというものです。正確にすばやく反応させるにはどうすればいいかを研究しています。

・**ドットマトリクス型発光ダイオードの受光特性に関する研究**
格子状に配置された発光ダイオード（LED）の受光特性について評価を行い、屋内外で利用できる光入力機器への転用の可否を検討しています。

・**携帯型水中光通信システムの試作**
電気信号を光の強弱に変え、それを太陽電池で受け電気信号に戻すといった簡単な通信機の製作を行い、その装置の周波数特性、信号伝達特性について調べています。

・**パルス管冷凍機的设计・製作**
チューブ内を往復する気体に適当な圧力変化を加えることによってチューブの両端に温度変化を生じさせることができることを示します。これを冷凍機として利用しようというものがパルス管冷凍機です。簡単な模型を製作し、その性能について研究しています。

・**大型風力発電機による超低周波騒音の発生状況に関する実験的研究**
風力発電の風車から発生する超低周波の発生原因について検討しています。

制御情報工学科の紹介



制御情報工学科長

伊藤 立治

本年2月より制御情報工学科長を務めております伊藤です。制御情報工学科の紹介を簡単にいたします。制御情報工学科は、情報系の学問を中心に、電気・電子工学、制御工学など幅広い分野の専門教育を行っている学科です。これにより、卒業後の就職先もIT系を始めとして、製造業、エネルギー関係、運輸関係、カスタマーエンジニア等、多岐に亘っています。

昨年度も制御情報工学科の学生はクラブ活動や各種コンテストで活躍しましたが、一番のニュースは、全国高専プログラミングコンテストで最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞したことです。情報系の学科として、プログラミングコンテストは重要なコンテストですが、そこで全国制覇したことは制御情報工学科の実力を広く知らしめたことになると思います。

教員の移動についてもお知らせがあります。昨年度まで学科長をされていた榎本先生は高知高専に転勤されました。新任教員として、昨年4月の都築先生に続いて、今年4月には中井先生をお迎えしました。

今年度新たに始めた取り組みの一つとして、「英語の多読」推進があります。企業のグローバル化が急速に進む中、技術者にも国際化が要求されています。仕事で使える英語力を身に付けるのは容易ではありませんが、学生時代に多くの英語を読み、英語力を高めておくことは、就職にしても進学にしても必ず役立ちます。

また現在制御情報工学科では平日夜8時〜10時を学習時間帯として設定することを検討しています。高専の教育についていくには毎日2時間の勉強は必要です。よく学びよく遊ぶ学生を育てたいと考えておりますので、ご協力の程お願いいたします。

思考のプロセスを大切に



一般教育科長

鏡 ますみ

本年度の一般教育科は新任教員2名を加え総勢14名の常勤教員と、13名の非常勤講師で授業を行っています。中間試験を終え、学生の皆さんは気が緩んでくる時期だと思いますが、家(寮)ではどれほど学習時間を確保していますか。

本校は昨年度より『国際コミュニケーション力向上事業』の一端の「教員の指導改善研究会」のメンバーになっていきます。それには全国より9高専が参加していますが、本校昨年度1年生のGTEC(英語試験)の平均スコアはトップ校のそれとほぼ100点の開きがありました。高専入学後、多くの学生に総合的な英語力がついていないことをスコアが如実に物語っていました。また、そのアンケートでも1年生のほぼ半数が平日「ほとんど学習しない」という結果も出てきました。

皆さんは、中間試験の勉強をどのように行なったかでしょうか。前日に試験範囲を丸暗記した、教科担当の先生のところ勉強した、パラパラとノートを見ただけ、などいろいろでしょう。予定を立てて2週間前から試験勉強をしたという人もいますか。自分のGTECのスコアを思い出し、これまでやってきた学習方法を見直してみましよう。忘れたら覚え直すという作業を繰り返して知識を自分のものにしていきますか。応用力はついていきますか。

自宅(寮)学習では、その日に学習した教科の復習を基本としてください。復習をしながら思考のプロセスを自分のものにしてほしいと思います。じっくりとプロセスを学びながら、忘れては覚えるを繰り返して思考回路を堅牢にしてください。答えをすぐ求めるのではなく、それに至るプロセスを楽しんでください。そうすれば考えることや学ぶ楽しさもわかってくるでしょう。その時のためだけの学習ではなく、じっくりと基礎学力をつけて将来を見据えた学習を常日頃から心がけてほしいと思います。

専攻科の紹介



専攻科長

宮崎 孝

本校専攻科は、平成16年度に認定され、今年で10年目となり、100名を超える修了生を出しています。本校専攻科は、商船系の海事システム専攻と工業系の生産システム工学専攻の2専攻からなります。2年間の教育課程を修了し、学位授与機構の審査に合格することで、四年制大学を卒業したのと同等の商船学や工学の学位を取得することができます。

現行の学位審査では、必要な単位の修得と学修成果レポートの提出、学外試験に合格する必要があります。この現行の方式に加え、新しい審査方式が始まり、本校専攻科も新しい特例適用の審査を受けているところです。学校としての審査に合格した場合、学生は必要単位を修得し特別研究の簡単な計画書と報告書を提出することで、学位が授与されることとなります。その代わりに、教育する側や特別研究の教育方法・評価方法が問われ、定期的なチェックを受けるわけです。

特別研究だけではなく、実験実習も実践性や創造性の育成に重要な役割を持っています。生産システム工学専攻にて昨年まで行っていた、サッカー競技ロボットの試験は、大学評価・学位授与機構による機関別認証評価でも高い評価を頂きました。今年度からは、新しいPBL型FAシステムの実験が始まりましたが、これについては別稿で詳しく説明したいと思います。

就職・進学状況は、引き続き本年度も良好です。2年生の就職活動は終盤となり、1年生は、インターンシップのための活動を始めています。現在の1年生から就職活動の時期は、3〜4ヶ月遅くなりますが、実際どの様になるか読めませんので、結局のところ早目の対応が求められることとなります。その意味でも、インターンシップは重要なものとなってきています。

10年目ということですが、専攻科のスタート時から不変の部分は考慮しつつ、時代に合わせて必要な部分を改善していきたいと思えます。

学生活動の紹介



パソコン甲子園で グランプリ獲得！

制御情報工学科4年
矢倉 章恵

昨年度の11月に福島県の会津大学で開催されたパソコン甲子園2013に出場し、Androidアプリ「飛行記」を開発しグランプリを受賞することが出来ました。「飛行記」は、上空を飛んでいる飛行機にスマホをかざすだけで行き先や便名がわかるアプリです。

開発メンバーは三人で、私はこれまでの経験からリーダーを務めることになりました。大会が近づくとアプリ開発はもちろん、プレゼンやデモの準備等、とにかく初めてのことはかり大変でした。自分だけでは解決出来ないこともメンバーや先輩、先生に相談するとすぐ解決することが多々あり、開発を通じてコミュニケーションは大切だと実感しました。



常に「自分達は何が出来るのか」を考え続け、行動し、それぞれが持っている能力を十分発揮できたことが結果につながりました。大会当日は、会場で沢山の方々に楽しんでいただけたので、「今まで頑張ってきたよかった」と心から思いました。こんな頼りないリーダーでしたが、最終的には良い結果

を残すことが出来て本当に嬉しかったです。これからももっと沢山の方々に喜んでいただけるようなシステムを開発していきたいです。

Digital Youth Awardで準グランプリ Imagine Cup 世界大会出場決定！

制御情報工学科2年
小山 紗希

私達「かぞくぐるみ」チームは4月12日に東京で開催されたDigital Youth AwardというMicrosoft系のアプリ開発コンテストで準グランプリをいただきました。予選結果の発表から大会当日までは2週間という短い期間しかなく、放課後や休日を使ってメンバーとスライドを作ったり、プレゼンの練習をしました。

あつという間に大会当日を迎え、会場ではいろんな大学の方や、企業の方と話をする機会もありました。私は、この大会で生まれて初めてプレゼンをさせてもらいました。人前で話すことがあまり得意ではなかったため、最初はメンバーの前での練習でも緊張して上手く喋ることができませんでした。本番では練習以上に緊張してしまいましたが、なんとか最後まで話すことができました。審査員の方たちも楽しそうに聞いてくださっていたので私も少し落ち着くことができました。



結果は、準グランプリとマイクソフト賞をいただきました。さらに私達は、7月末にアメリカで開催されるImagine Cupの日本代表候補と

して推薦され、先日マイクソフト本社から世界大会出場の見定通知を受け取りました。今からドキドキしていますが、「かぞくぐるみ」の魅力をシアトルから世界中の人に伝えたいと思います！

小水力発電 アイデアコンテスト

電子機械工学科5年
東川 励弥

3月に行われた「第3回小水力発電アイデアコンテスト」に参加し、学生投票で決める「学生優秀賞」を受賞しました。

このコンテストでは、製作した小水力発電装置を実際に小川や用水路に設置し、その装置の発電量や効率性を競い合います。さらに、発電した使用用途のアイデアや完成度を地域の人に評価してもらうなど小水力発電を知らない人に自分たちの考えを評価してもらうことも重要です。今年「ブロック玩具」のような誰でも様々な形が作れる「BOX小水力発電」という装置を製作しました。今回初めて落差がある設置場所を選び、上から水を落とす水車を製作しました。



いざ、現地で設置して発電させようとする水が水車に当たりすぎて思うように回転せず、大会前日で発電することが出来ませんでした。しかし、当日にブロック配置の変更と水量調整で発電することができました。そのトラブルを乗り越えたことをアピールする

ことができ、他高専の学生から評価され受賞しました。今大会ではトランプに掛けようになりましたが、仲間と真剣に取り組みんで乗り越えた経験は自分にとって大切な宝物になりました。

リーダーズ トレーニング



商船学科
航海コース5年
入宮 康毅

私は学生会役員として1月5日から7日までの3日間、岐阜県高山市にある国立乗鞍青少年交流の家へリーダーズトレーニングに行きました。リーダーズトレーニングはスキー・スノーボード研修や討論会を通じてリーダーを育成することを目的としています。今回は学生会役員と各クラブの代表者合わせて32名が参加しました。

初日は現地に移動し、翌日からのスキー・スノーボード研修を行いました。2日目は1日中スキー・スノーボード研修を行いました。初心者もインストラクターの指導により滑れるようになりました。夜には学生会役員と部活代表者に分かれて次年度の活動計画等について話し合いました。私は学生会役員として今後の学生会の方針等について話し合いました。皆疲れていましたが、達成感に満ちた表情をしていました。

最終日は施設を出発し、高山市内で短い時間でしたが観光もしました。帰りのバスは皆疲れていてほとんどの学生が寝ていました。この3日間の研修で、指導する難しさを知り、リーダーに必要な要素とは何か

について話し合うことで、さらなる成長が出来るきっかけとなる時間を過ごせたと思います。

空手部

電子機械工学科4年
相松 孝

空手道とは勝敗を究極の目的とせず「礼節を重んじ」「和を尊び」「不撓不屈の精神力と強靱な体力」などを培つ厳しい鍛錬の道でもあります。

この心と体を鍛えるのに最も適した「空手道」を学んでいる私達空手部は、男子18人女子マネージャー4人の計22人で活動しています。練習は主に月曜日から木曜日の週4日間です。他の部活とは異なり大会や昇級・昇段審査以外の週末は休みなので、寮生は帰省でき通学生は遊びやアルバイトなど充実した休日を過ごせます。

私達は三重県大学高専大会で団体組手の部2連覇、団体形の部で4連覇しています。また、現在は東海地区大学高専大会に向けて優勝を目指し、日々練習に取り組んでいます。船越義珍先生(日本空手協会)の遺された「空手二十箇条」に「空手は礼に始まり礼に終わる事を忘れるな」とあり、また「空手の修行は一生」とありますが、空手士達の王道は、「稽古を続けること」にあると思います。礼儀正しく、こつこつと稽古を続けることがやがて大きな成果を生むことになりま。

初心者の方も大歓迎です。私達と一緒に空手道を学びませんか。



国際交流



『国際交流推進室から』

国際交流推進室長

橋爪 仙彦

この3月には3つの国際交流行事が開催されました。

術などについて英語で学びます。本校からは3名の学生が参加し、他の商船高専の5名の学生たちと寝食を共にし、いろいろなことに挑戦しました。

今年もKCC国際インターンシップが、ハワイ諸島のカウアイ島およびオアフ島にて3月9日～3月26日にかけて行われました。このプログラムではハワイの歴史や文化をはじめ、航海計器を使用しない伝統航海



KCCの学生と共に

ウアイコムユニティカレッジ(KCC)に通学し、現地の先生による英語の授業や、ハワイの文化、伝統航海術の授業を受けます。また、KCCの日本語クラスにも参加し、日本語を学ぶ学生たちとも交流します。受講するだけでなく、学生たちは事前にプレゼンテーションを準備し、KCCの職員や学生たちに向け英語で発表をします。今回は日本の正月や漫画について発表し、多くの質問や意見を受けました。野外活動では「ナマホエ」という古代式カヌーの建造に携わったり、海でオーシャントレーニングを行ったりしました。プログラム後半はオアフ島に移動し、ホノルルコミュニティカレッジの海事教育訓練センターでの航海カヌーのクルートレーニングに合流します。学生たちは4つのグループに分かれ、ハワイ語の歌やプロトコルを学びました。また、古代式カヌー「ホクレア」や「ハワイロア」に触

れ、その航海士たちの話を聞く貴重な経験をしました。

ここには書ききれませんが、まだまだたくさん行事があります。伝統料理「ラウラウ」を作ったりサーフィンをしたり。このプログラムの良いところは、座学だけではなく、学生たちが体を動かしながら英語を学べることだと思います。現地の学生たちとの交流機会も多く、今後国際社会で活躍を目指す学生たちにとって有意義な3週間になるはずですよ。(商船学科 小田 真輝)

3月13日～3月20日にかけてシンガポールで開催されたMELキャンプに本校から7名の学生が参加しました。MELキャンプは、客船に乗り船内にて講義やワークシヨップなどを行うことで、船に乗るうえでの様々な知識や経験を得るプログラムです。毎年3回 Singapore Maritime Academy (以後SMA) が開催しており、3月のMELキャンプには本校以外にも日本からは大島商船、韓国からも学生が参加しており、諸外国の学生と交流することで英会話の実践訓練や外国の文化にたくさん触れることができました。

MELキャンプ開始の3日前にシンガポールに渡航し、この3日間はSMAの学生や教員と共にSMAの校内見学やシンガポールの各所を見学して回りました。今回で初めて海外に来た学生も多く、「どうやって

お金を両替するのか」「シャワーのお湯の出し方が分からない」など日本との違いに四苦八苦しながら生活をしており、日本での教育では体験できない事柄を学べました。その後4日目から4日間MELキャンプに参加しました。講義の内容は「航海中の安全について」や「外航について」など船についての内容ですが、商船学科以外の学生が見ても大変興味深い内容でした。グループワークでは、学生が様々な課題を与えられてその課題について話し合っていました。例えば、「乗船期間中に不慣れな事」について話し合っってポスターでまとめるなど、コミュニケーションを取り、グループでの協力が必要不可欠なものとなっていました。当然英語を使い自分の意見を言わなければならぬので、学生たちは開始当初、非常に苦労していましたが、徐々に慣れていく姿が見られました



MEL キャンプ客船内で記念撮影

た。また、MELキャンプ3日目にはタイのプーケットに上陸し観光を行うなど、非常に内容の濃いプログラムになっていました。本校生はこのプログラムを通じて他の国の友達もたくさんでき、毎日活き活きとしていました。このつながりはSNSを通じて本プログラム終了後も続いているので、今後世界で活躍したい学生も多いことからこれらは必ずどこかで活かされると期待されます。(電子機械工学科 宮本 潤示)

鳥羽商船では、留学生交流促進センターの補助を受けて、春休みから新年度にかけて6週間、シンガポールからの留学生3名を受入れました。「鳥羽ICTプロジェクト」(ICT・情報通信技術)の題目のもと、旅行者への情報提供をサポートするためのウェブサイト構築を行いました。

具体的には国際観光文化都市である鳥羽市および、伊勢志摩国立公園において、外国人旅行者のためにICTを利用した適切な観光案内や情報配信の方法について、現地調査を行ったうえで提言をまとめ、解決手段のデモンストレーションを実施しました。現地調査では旅行者が必要としている観光地や食事処での英語表記、交通機関の情報等が明確になったとともに、その必要な情報が準備されていない事が明らかになり



鳥羽 ICT プロジェクト デモンストレーション

ました。本プログラムで作成したアプリケーションは、どこからでも鳥羽市についての情報を英語表記で調べることができ、外国人旅行者が必要な情報を必要な時に得ることができ、このアプリケーションを今後活用することでさらに外国人観光者の増加が期待されます。

プログラムを実施するにあたり、本校に在籍する30名程度の在校生をサポート学生に任命し、鳥羽で

の活動支援を行いました。システムの開発だけでなく、サポート学生とともに観光地へ赴いたり、日常生活を経験することにより、留学生とサポート学生双方にとって交友関係を深めて異文化を学ぶ良い機会となりました。もちろん、サポート学生はシンガポールの母国語である「英語」を用いて意志疎通を図っており、日本に居ながら海外の英語環境を経験することができました。また、インターネット上で写真やメッセージの共有ができるSNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用し、サポート学生と留学生が常に情報交換できる環境を整えました。留学生が疑問に感じたことを学生同士で支援を行うことができました。

本プログラムでは、本校の多くの学生が他国の学生と触れ合い、海外からの同世代の学生のプレゼンテーションを見ることができました。在校生は英語でのコミュニケーションの必要性を認識し、今後の英語学習へのモチベーションを上げている姿が見られ、学校全体で更なる国際性の向上が期待されます。

(制御情報工学科 都築 啓太)



留学生自己紹介



商船学科3年 アリフ

はじめまして、私はモハマドアリフ イクマルと申します。マレーシアから来ました。今、本校商船学科3年生で勉強しています。

マレーシアと日本を比べて、マレーシアの方が住みやすいと思います。マレーシアという国は物価も安いし、天災もありません。旅行しかなかったら、マレーシアへ行けば必ず良い思い出がつけれます。また、マレーシアは食べ物の天国と呼ばれ、美食家の二番目の家と言われています。

しかし、マレーシアの技術はまだまだ発展していません。マレーシアには新幹線がなく、電車はいつも遅れています。日本の技術は世界でもトップクラスであり、これは誰からも知られている事実です。それで私は日本に勉強しに来ました。ですから、私は日本人の仕事のやり方や時間を守る態度を学びたいと思います。

私にとって、ほかの国で生活することは本当に大変です。言葉が違うし、最も文化が断然異なります。鳥羽商船に着いたばかりのとき、友達と先生の話が聞き取れなかったり生活が分からなかったり色々な困ったことがあります。しかし、優しい友達と先生のおかげで、だんだん生活が良くなりました。

最後に、私にとって日本に留学できたことは、私の人生の宝です。最も良い将来に向かって頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



電子機械工学科3年 ムンフ

電子機械工学科3年生、モンゴル出身のムンフです。去年から東京で一年間日本語を学び、今年の四月から鳥羽商船高等専門学校で勉強しています。学校に来てからは色々楽しいことも、大変なこともありました。寮の生活にも段々慣れてきました。寮

ここに来たばかりのころは同級生や先生の話を聞きとれませんでした。東京で勉強した日本語と違って方言があり困りましたが、三重県の方言にもだいぶ慣れてきました。また、日本人の友達を作れることも大変でしたが、寮に住んでいるので、何人かの寮生の友達を作り、一緒にご飯を食べたり勉強したりして、仲良くなれたのが嬉しいです。ほかに生活と授業で大変なことがいっぱいあります。友達と先生が助けてくれるので安心していきます。

学校では実験の道具や設備が整っていて、内容の濃い実験ができます。また体育も本当に面白いです。モンゴルではソフトボールのことを全然知らなかったのので、初めはちょっと難しくてつまらなかったのですが、今は好きになりました。留学しているうちに一生懸命勉強していきたいと思っています。また勉強だけでなく、色々なスポーツをできるように思って、たくさん友達を作りたいと思っています。



制御情報工学科3年 リー

制御情報工学科3年、ラオス出身のリーです。趣味はサッカーすることとアニメを見ることです。私は去年の4月に来日し、東京日本語学校で一年間、日本語を勉強しました。そして、今年の四月に鳥羽商船高等専門学校に編入しました。

鳥羽商船に着いたばかりのとき、生活で分からないことがあったり、友達や先生方の話が聞き取れなかったり、困ったことがたくさんありました。しかし、先生方やクラスメイト、先輩がいつも色々なことを教えてくれて安心してできました。その中でもチューターの方にはよくお世話になっています。

留学生には日本人の寮生であるチューターが就いてくれており、いつもチューターの方から日常のことを教えてもらっています。買い物に連れて行ってもらったり一緒に勉強したりして、本校での生活はだんだん楽しくなってきました。

また、留学して初めて日本と自分の国は違うところがたくさんあることに気がつきました。例えば、日本で買い物をするとき、人々は綺麗な行列で並んで待っています。私の国では日本のような行列を見たことがありません。

これから日本の文化もたくさん学びたいです。また、日本の技術を学ぶためにも頑張っていきたいと思っています。さらに、本校で勉強しているうちに、専門も英語も一生懸命勉強して、大学に進学したいと思っています。そして、クラスメイトの皆さんと勉強だけでなく、スポーツや行事なども熱心に取り組んでいこうと思っています。

新設備紹介

操船シミュレータ・システムの紹介

商船学科航海コース教授 片岡 高志

本校に新たに導入された操船シミュレータ・システムについて紹介します。本システムは、レーダー・自動衝突予防援助装置（ARPA）、電子海図情報表示装置（ECDIS）等実機の航海機器を搭載した模擬船橋、半径3mの円筒形スクリーンに計3台のプロジェクタを用いて背面投影を行う映像投影室およびシステム全体の制御を担う教官操作室から構成されます。

本システムの水平視野角は、両舷側に配置した正横後視界表示用ディスプレイを併せて225度、垂直視野角は30度です。自船運動モデルには流体力学モデルを採用し、本校練習船「鳥羽丸」を含む19船種・船型を有しており、推進方式の異なる固定ヒッチプロペラおよび可変ヒッチプロペラ各二軸船まで対応しております。他船（応答モデル）は計50船種ですが、自船も他船として配置することが可能です。海域は、本校ボツツンから池の浦湾を含む「鳥羽港」をはじめ国内主要7海域（12港）、国外2海域を有しております。

本システムで生成する三次元映像は、昼間・薄暮・夜間等任意の時間帯による映像表現は勿論、視程・降雨・風潮流等の自然環境の変化に応じて再現されます。自船および他船の船首波、航走波等も表現するとともに、海面状態（波向・波高・周期）と自船の船体運動計算に用いられる波条件が連動します。また、自船および他船が行う汽笛信号、主機音、岸壁や他船接触時および座礁時の音響、風・雨等の自然環境音等についても忠実に再現することが可能です。



操船シミュレータ・システム

レーダー・ARPAシミュレータ

商船学科航海コース助教 吉田 南穂子

商船学科航海コースでは、2号館1階西側の航海計器実験室にレーダー・ARPA（自動衝突予防援助装置）シミュレータを設置しました。本装置は、STCW条約に基づいた国土交通省が求める登録海技免許講習のうちレーダー・自動衝突予防援助装置シミュレータ講習に適合する訓練が可能です。

レーダー・自動衝突予防援助装置シミュレータ講習は、シミュレータを用いてレーダーによりプロットイングを行い、レーダーやARPAによる他船との衝突を防止するための知識や技能を習得するための講習のことです。国際的にはSTCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）で、国内法では船舶職員及び小型船舶操縦者法でこの講習の内容が定められています。

- このシミュレータは主に左記の機器によって構成されています。
- ・シミュレータ本体
- 以下は全て2船分を設置した機器
- ・レーダー端末
- ・操舵スタンド
- ・航海計器表示パネル
- ・VHF無線電話装置

本装置では、事前に用意したシナリオによりシミュレータが生成する他船のターゲットやAIS情報、速度や針路などの自船情報が表示できます。実習の目的ごとに訓練シナリオの作成ができ、2船を同一海域で同時に訓練をすることで効果的なレーダーによる衝突予防訓練が可能です。

この装置は、商船学科3～5年生の航海コースの授業および実習で使用されます。



ECDISシミュレータ

商船学科航海コース教授 鈴木 治

商船学科航海コースでは、2号館3階の操船シミュレータ室と隣接する「航法教室」に、他校に先駆けて23台の実習用端末を含む教育・訓練用電子海図情報表示装置（ECDISシミュレータ）を設置しました。これにより、STCW条約の改正（2010年改正）に基づいた、国土交通省が上級の海技士に求めるECDIS講習に適合する訓練が可能です。

また、この装置は、同時期に改装された操船シミュレータとのデータ連携ができ、各地に設置されている海上交通センターの機能をも模擬することが可能です。

このシミュレータは、左記の構成からなります。

- ・紙海図作業および収納可能な専用机（11台）
- ・シミュレータ本体
- ・訓練端末（22台）
- ・船舶搭載型端末（1台）
- ・VHF無線電話受信装置（2台）
- ・AIS受信機
- ・GPSコンパス

電子海図の操作、取り扱いは実習の際は、ECDISシミュレータが生成する海上交通の情報他、操船シミュレータからのデータが表示できますが、AIS受信機による鳥羽商船周辺海域（伊勢湾、三河湾、伊良湖水道）の実習時点でのリアルタイムの船の動きを、電子海図上に表示することができ、紙海図による実習と共に効果的な海図に関する実習を受講することが可能になりました。

この装置は、商船学科3～5年生の航海コースの授業および実習、また特別に行うECDIS訓練で使用されます。



「航法教室に設置されたECDISシミュレータ（端末23台）」

誘導電動機制御実習システム

商船学科機関コース准教授 窪田 祥朗

導入された誘導電動機制御実習システムは、誘導電動機の数値制御、始動方法の実習、および、電動機の特性を検証する実験が可能な実習システムです。

誘導電動機は交流モータであり、船舶において非常に多く用いられています。例えば、機関室内には、様々なポンプ類が存在しています。その動力源に誘導電動機が用いられています。また、最近では電気推進船が普及しつつあり、プロペラの駆動源にも誘導電動機が利用されています。

出力の小さな誘導電動機であれば、スイッチをONにするだけで運転し始めますが、大きな誘導電動機の場合、スイッチをONにしただけでは、始動時に大電流が通電されるため、焼損や故障の原因となってしまう、駆動できません。そのため、誘導電動機を安全に始動するために、いくつかの始動方法が考案されています。本実習システムを用いることで、種々の始動方法を実習でき、始動時の大電流がどのように抑制されるか、実験により検証することができます。

また、速度制御の実習も可能であり、種々の速度制御方法を比較することができます。さらに、誘導電動機の数値制御特性を実験により明らかにすることも可能であり、誘導電動機の性能試験を行うことができるシステムとなっています。

本実習システムは、実際の大型船舶と同じ操作盤を採用しており、船舶職員を目指す学生には大いに活用してもらい、実習を通して是非、即戦力を身につけてほしいと考えています。



船用機関教育訓練システム

商船学科機関コース准教授 今井 康之

内燃総合実験棟に付設されている、船用エンジンが生まれ変わりました。

教育・研究用として導入されている4サイクルディーゼルエンジン（松井鉄工所製MUC323型、出力257kW）は、国際海事機関（IMO）で船舶の排ガス規制の基準を定める際に基礎研究で用いられたエンジンと同型の機関です。このシステムは昭和56年に製造されたもので、技術職員などの運転整備のものと現役で稼働していますが、当時は最新であった機器も、配線の経年劣化や、データの互換性、機器の老朽化などの問題が蓄積していました。

しかし昨年度、松井鉄工所とヤンマーの2つのエンジンメーカーが手を組み、貴重なエンジンは残しながらも機器整備を行い、データ処理解析装置の改修、制御盤が一新されました。

陸上試験にはめずらしく、船の設備と同じエンジンレギュラ付きの制御盤を特別に設計し、エンジン回転数を変えるFPPモードと負荷調整をプロペラピッチ角度にみたてたCPPモードの2つの運転モードを備えました。また、エンジンには本校練習船「鳥羽丸」と同等の燃焼解析装置が付けられシリンダ内の状態を確かめることができます。複数の疑似警報スイッチも備え、実際にエンジン動かしている間にエンジンシミュレータとしてトラブル対応を学ぶことができます。加えて排ガス処理装置増設も計画されています。

実践的教育や実験実習、研究だけでなく外部の方にも利用して頂ければと思います。



データ処理解析装置・制御盤

FAラインPBL学習設備

専攻科長 宮崎 孝

本校専攻科では、実践性や創造性の育成のため、与えられた課題のために必要な解決方法を考え、それを実現していく課題解決型のPBL（Problem Based Learning）実験を行っています。また、もの（モノ）の現場におけるFA（Factory Automation）で中核をなすのがシーケンス制御の技術で、PLC（Programmable Logic Controller）により実行されます。PLCのプログラム開発手法、異分野のメンバーによるプロジェクトマネージメント手法、実際のFAシステムの開発手法の修得を目的に、新しい設備を用い、実践性を高めたPBL型FAシステムの実験が今年度より始まりました。

この「FAラインPBL学習設備」は、寿司レーン型のFAライン装置、制御を行うための新型PLC、プログラム開発用のノートPC、正確に物の位置決めをするACサーボモータと駆動回路、画像処理ユニットやCタグなど計測や識別を行うセンサーで構成されます。これらを統合し、人の手間の省力化を目的とした植物工場の開発を目指して、実験を進めています。また、これらの装置を設置する専用の実験室も、旧ボイラー室を改装して用意していただきました。外装は、以前のままですから、中に入るとびっくりの秘密基地のような造りとなっています。

この部屋は、オムロン株式会社による制御セミナーの会場としても使用しました。実験を始めたばかりであり、システムは形となっていないませんが、良い成果が出せるよう学生・教職員とも頑張っております。



近藤真琴顕彰碑の由来

電子機械工学科
水野 逸夫

1. 本校の聖域

本校の正門から入って右側、百周年記念資料館までの場所には「近藤真琴顕彰碑」、「慰霊碑」、「百周年記念碑」の3つの碑が並んでいる。碑の周囲には種々の樹木が植樹されており、「碑公園」となっている。これらの碑はそれぞれが本校のシンボルであり、「碑公園」は本校の聖域である。「慰霊碑」は本校関係者と同窓会員物故者の慰霊のため、本校創立九十周年の際に、「百周年記念碑」は創立百周年（1981年）の際に建立されたものである。

2. 「近藤真琴顕彰碑」の建立

校祖近藤真琴先生は、明治19年（1886年）9月4日、コレラのため、東京で死去された。56歳であった。先生の突然の死は、郷国鳥羽の人々にとって大きな痛恨事であった。先生の鳥羽への貢献、先生に対する敬愛の思いは絶大なものがあつたからである。

このため、奥村善八（当時の本校書記）を中心とし、鳥羽町長の須藤富八郎ら12名の発起人（同盟人）によって顕彰碑の建立計画が進められた。

碑は明治22年（1889年）10月に建立された。場所は旧鳥羽城址の南麓、現在の鳥羽市民文化会館の市役所寄りのところ。碑石は朝熊山麓の「桜が淵」より得た高さ約3.3mの濃緑色の自然石の良材である。碑の正面には「近藤真琴翁碑」の6文字、傍らには「応需海舟勝安房書之」の9文字が刻まれている。勝海舟は先生の知己であった。碑の前方左右には聯石柱があり、右の石柱には「他山攻玉出良材偉器」、左の石柱には「家塾育英承惠雨恩風」の文字が刻まれている。聯石柱の前には紅白2株の梅が植えられた。梅は生前の先生が最も好まれた花である。また碑の裏面には、旧鳥羽

藩士、有馬百鞭の選文ならびに書の碑陰銘と同盟人の姓名が刻まれている。選文は近藤先生の学、徳、業績を讃えるものである。近藤先生の徳を梅の香りに託している語句が印象的である。（碑文は長いのでこの記事では掲載不能。実際の碑、あるいは本校の「百年史」を見て下さい。）

3. 「近藤真琴顕彰碑」の移転

昭和16年（1941年）11月16日、「近藤真琴顕彰碑」は本校敷地内（現在の3号館制御情報工学科研究棟付近）に移設された。皇紀2600年（昭和15年）の記念事業であった。その後、本校で大切に祀られてきたが、研究棟建設のため、平成2年（1990年）に「慰霊碑」とともに現在位置に再度移転された。平成3年2月8日、近藤家の御子孫や攻玉社学園代表者、本校同窓生多数を迎えて、「近藤真琴翁碑」入魂式が行われた。

4. 永遠の「近藤真琴顕彰碑」

一塊の岩にも命があり、それを見て心にとめることが、近藤真琴先生の精神を受け継ぎ、発展させることになる。本校の教職員、学生、同窓生にとって、これほどの宝物は無いと信じている。本校が存続する限り、この碑は永遠である。

校祖の碑 空青し
遺徳を偲ぶ 命や
梅が香や 芽吹く園に
—— 晴 ——



梅の香漂う「近藤真琴顕彰碑」
（平成26年3月10日撮影）



商船学科航海コース
小島智恵

4月より商船学科の助教として着任しました小島智恵（こじまちえ）です。

名古屋市港区出身で、本校の航海コースを平成14年に卒業し、平成26年3月末まで、帆船日本丸や海王丸、大成丸、青雲丸の航海士として乗船していました。

私の学生時代の思い出は、学生会の会長をしたことです。校内カタッター大会や海学祭の学校行事等で、周りの仲間や、教職員の方々に、色々とお手伝いいただいたことが一番の思い出です。その母校で、勤務することができ、今は、日々、楽しく過ごしています。

母校の教員になってから感じたことは、学生が素直で、実習や実験に意欲的に取り組む学生の姿に感心しています。今後は、航海士としての経験を活かし、授業や実習を進めたいと考えています。

私は、社会人になってから心がけていることがあります。それは、いつも明るく、笑顔で、そして、コミュニケーションをしっかりと取ることです。

「教員1年目」ですので、この心掛けを忘れずに頑張ります。どうぞよろしくお願ひ致します。



電子機械工学科
亀谷知宏

この度、4月より電子機械工学科の助教に着任いたしました亀谷知宏と申します。

私は昨年の3月に大学院博士課程を修了し、その後1年間日本学術振興会の特別研究員として研究を行って参りました。研究は感圧塗料など、光を用いた計測技術について研究をして参りました。感圧塗料とは空気による力によって明るさが変化する塗料で、航空機の性能の向上などに役立っています。このような技術をさらに発展させ、より身近なものに応用することで社会に還元して参りたいと考えています。

私の出身は三重県ですが、これまで鳥羽には幼い頃に数回程度しか訪れたことがありませんでした。本校に赴任し、実際に生活してみると、豊かな自然の素晴らしさを再認識できました。また、私自身これまで高専という教育環境に無縁であったため、赴任当初は疑問や戸惑いもありましたが、教職員の方々に丁寧な指導いただいたおかげで順応しつつあります。これから講義や部活などを通して、学生の皆さんの成長に少しでも貢献できればと思っております。最後に教員、社会人としては未熟者であります。これから精一杯取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

4月より電子機械工学科助教に着任いたしました脇坂賢（けん）です。「いつもズボンにサスペンダーで吊っている先生」というと、皆さんピンとくるかもしれません。生まれは九州の熊本で、熊本電波高専を卒業後、豊橋技術科学大学の学部・大学院を経て、このたび縁あってこの鳥羽商船高専でお世話になることになりました。専門分野は、「組み合わせ最適化」や「スケジューリング」などをやっています。簡単に言うると「すぐくやくしい問題をコンピュータに解かせる」といった感じです。



電子機械工学科
脇坂賢

コンピュータ関連の分野は、技術の進歩が速いことに加えて、次々と新しいものが出てきては、それまでのものは古くなっていきます。私自身高専を卒業して10年と経っていませんが、当時学んだことで既に「古い技術」になってしまったものも数多くあります。じゃあ、どうせ役に立たなくなるなら勉強しなくても良い？ そんなことはありません。高専での勉学の中で、技術者として必要な考える力、書く力、纏める力、そして学び続けていく力、など、技術者としての基礎力を高専の学生の間に培うことが出来るよう、教員として、高専OBとして尽力していきたいと考えております。宜しくお願ひいたします。

この度、制御情報工学科で勤めさせていただくことになりました、中井一文と申します。3月までは技術職員として在職しておりましたのでご存知の方も多いかと思えます。私は平成16年3月に本校制御情報工学科を卒業し、10年目の節目の年に教員となることができました。在学中お世話になった教官も多数いらっしゃいますので、頭の上がらない毎日を過ごしております。



制御情報工学科
中井一文

今回は、技術職員時代から低学年の学生に言い続けていることを紹介してご挨拶と代えさせていただきます。私は、席を立つときは椅子をしまえ、借りてきたものはまったく同じ状態にして元の場所に返せ、ゴミを残すなど言っています。これはなぜでしょうか。

これを読んでいるあなたが無事に本校を卒業して働き始めたとき、そのときにあなたを待ち受けている第一の壁はなんだと思いますか？ 答えは、接する相手が全員年上で、すでに社会の常識を身に付けているということです。仕事の内容で叱られるのは働き始めは当たり前として、椅子をしまえないとか元の場所に戻せないとかであんなに評判が下がるのはとてもつまらないと思いませんか？ イエス！と思えるあなたは私と一緒に意識を変えていきましょう。

本年4月より、一般教育の助教として勤めさせていただきます。出身は三重県の四日市市で、小・中・高隣の愛知県でしたが、この間も三重県の実家から電車で通学しました。この度、自分が生まれ育った地域で教員になることができ、大変嬉しく思っています。赴任してからは鳥羽に住んでいます。学校の近くには海があり、自然の豊かさを感じています。先日は学校の敷地内でカニが歩いているのを見かけました。ようやく新しい環境にも慣れてきましたので、皆さんと有意義な時間を過ごせるように頑張りたいと思います。



一般教育
内村佳典

私が担当する数学という科目は、様々な分野で応用されています。特に、高専では学年が上がるにつれて専門的な内容を学ぶようになり、数学の知識を利用する機会が増えていきます。自分の専門分野で実際に数学を使うようになると、そのおもしろさや重要性に気付いてくるはずですよ。低学年では、そのような機会に出会うことが少ないかもしれませんが、根気よく頑張ることが大切です。講義では、少しでもそのようなおもしろさや重要性が伝わるように努めたいと思います。よろしくお願ひいたします。



一般教育
三重野 雄太郎

4月より一般教育に着任しました、三重野雄太郎（みえのゆうたろう）と申します。よろしくお願ひ致します。

担当科目は、3年生の現代社会、4年生の法学および経済学、専攻科2年生の社会政策論です。専攻は、法学、特に刑法と医事法で、研究テーマは、生殖医療の法規制です。出生前診断、着床前診断などの生殖医療技術を法律で規制すべきなのか、そうだとすればどのように規制していくのか、といったような点について、日本の法学に大きな影響を与え、近時様々な動きがあるドイツの状況を調べながら、日本への示唆を導き出したいと考えております。

現代社会においては、上述のような生命倫理の問題や、近時話題となっている集団的自衛権の問題、より広い規模では環境問題など、様々な問題が生じています。これらの問題は、私達一人一人が当事者意識を持って考え、行動していくことなくして解決することはできません。本校の学生には、こうした社会問題に関心を持ち、その解決に向けて多角的に考え、行動していきける「主権者」になっていくことを望んでいます。

平和で民主的な、誰にとっても住みよい社会の実現に向けて共に考え、行動していきましょう！

教職員の人事異動

（平成26年3月31日付け）

○定年退職

伊藤 政光（商船学科教授）
大石 哲男（電子機械工学科教授）
世古 昌也（学生課専門職員）

○退職

桐山 和彦（電子機械工学科教授）
尾形 民雄（鳥羽丸一等航海士）
上野 康平（一般教育准教授）
兵藤 貢司（テクノセンター鳥羽丸操機手）
橋爪さち代（学生課学生相談技術補佐員）

○雇用期間満了

佐藤 宗明（商船学科嘱託教授）

○転出

金沢大学人間社会研究域経済学経営学系准教授
← 小澤 裕香（一般教育准教授）

（平成26年4月1日付け）

【教員】

○昇任

商船学科 教授 鈴木 治
電子機械工学科 教授 古森 郁尊
電子機械工学科 教授 宮崎 孝

○転任（高専間配置換含む）

高知工業高専電気情報工学科教授
← 榎本 隆二（制御情報工学科教授）
鈴鹿工業高専准教授 ← 石谷 春樹（一般教育准教授）
豊田工業高専准教授 ← 西川 雅堂（一般教育准教授）

○採用

商船学科 助教 小島 智恵
電子機械工学科 助教 亀谷 知宏
電子機械工学科 助教 脇坂 賢
一般教育 助教 内村 佳典
一般教育 助教 三重野雄太郎
電子機械工学科嘱託教授 大石 哲男

○併任等

教務主事 石田 邦光
学生主事 坂牧 孝規
専攻科長・生産システム工学専攻主任 宮崎 孝
商船学科長 伊藤 友仁
図書館長 岸川 良蔵
テクノセンター長 山下 晃司（留任）
国際交流推進室長 橋爪 仙彦

商船学科航海コース主任 片岡 高志
副総合情報センター長 白石 和章（留任）
副テクノセンター長 小川 伸夫
教務主事補 出江 幸重
学生主事補 窪田 祥朗
寮務主事補 澤田 圭樹

○配置換

商船学科准教授 鈴木 秀司（鳥羽丸船長）
制御情報工学科 助教 中井 一文（テクノセンター技術職員）

【職員】

○転任（高専間配置換含む）

阿南工業高専 事務部長 ← 山下 文一（事務部長）
豊田工業高専 学生課長 ← 三浦 栄一（学生課長）
鈴鹿工業高専 総務課地域連携係長
← 高吉 康弘（調達係長）

○転入（高専間配置換含む）

事務部長 豆本 博一（兵庫教育大学入試課長）
学生課長 塚原 祐子
(奈良工業高専学生課課長補佐)
総務課調達係長兼施設係長 福田 雄一
(三重大学病院事務部医療サービス課主任)
学生課入試・支援係長 内田 友和
(三重大学企画総務部人事チーム主任)

○採用

テクノセンター鳥羽丸操機手 金子 将也

○配置換等

総務課専門職員（将来計画担当） 穂積 親憲（総務課施設係長）
総務課総務主任 松本 志保子
(学生課学生生活係寮務主任)
総務課財務・経理係 中井 清吾（総務課総務係）
総務課図書係 前川 堅太郎
(総務課企画・地域連携係)
学生課学生生活係 小竹 悠哉
(総務課財務・経理係)
総務課調達係 中山 雄治
(総務課人事労務係)（再雇用）
学生課学生生活係事務補佐員 米倉 佐恵子
(総務課図書係事務補佐員)

○兼務解除

学生課課長補佐 喜井 健二
(兼務：学生課入試・支援係長)

平成25年度卒業証書、修了証書授与式を挙

平成25年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式が、去る3月3日（月）10時30分から本校第2体育館において挙

行された。藤田校長から、一人一人に卒業証書、修了証書が授与され、来賓、保護者、教職員及び在校生から祝福を受けて、学窓を巣立っていった。



平成26年度 名誉教授称号授与式

平成26年5月12日（月）、名誉教授称号授与式が校長室にて行われました。授与式では、藤田稔彦校長から称号が授与されました。

平成26年度 名誉教授 伊藤政光



公開講座・出前授業実施

公開講座一覧 サイテクランドin 鳥羽商船

講座名	開催日
Wiiリモコンでゲームプログラミング	8月18日（月） 9:30～15:30
LEGOで自動走行ロボットを作ろう	8月19日（火） 9:30～15:30
君が船長 船でGo!	8月20日（水） 9:30～15:00
手作り太陽電池	8月20日（水） 9:30～16:00 8月21日（木） 9:30～12:00
NC工作機械でキーホルダーを作ろう	8月21日（木） 9:30～15:30
mini水車を作って、水道水で発電しよう!	8月25日（月） 9:30～15:00

秋の公開講座

講座名	開催日
小学生のためのバレーボール教室	10月20日（月） 19:00～21:00 10月27日（月） 19:00～21:00

その他の講座

講座名	開催日
みえアカデミックセミナー 2014	8月6日（水）
海洋体験教室（四日市港まつり） 練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海	8月3日（日）
海洋体験教室 in 名古屋港 練習船「鳥羽丸」の一般公開と見学航海	11月8日（土） 11月9日（日）

出前授業

体験型学習

講座名 Course	担当学科 Department
機関士のごとく体験	商船学科・テクノセンター
物を冷やす仕組み	商船学科
オリジナルTシャツ・バッグ作成講座	電子機械工学科・制御情報工学科
食品の加熱って?ー電気を利用したヒータの製作ー	商船学科
LEGOロボットを作ろう(初級)	電子機械工学科・制御情報工学科
LEGOロボットを作ろう(機械)	電子機械工学科
LEGOロボットを作ろう(情報)	制御情報工学科

教養講座

講座名 Course	担当学科 Department
トランシーバを使ってみよう	商船学科
日常で使えるロープワーク	商船学科
ものはどこからどのように運ばれてくるの?	商船学科



編集後記



学校だより第80号をお届け致します。
本号は、本校学生の活躍や国際交流、新設備や新任教員紹介など、盛りだくさんの内容でお送り致しております。
長い歴史を礎に、常に新たな道を進み続ける本校の今の姿をお伝えできれば幸いです。
本号におきましても、多くの方に記事をお寄せ頂きました。有難うございました。

(増山記)